

Sクラスにソックリのリアコンビランプも、Cクラスではワイドに見せるアイテムとして採用。汚れ付着防止のため...

もう廉価版とは言わせない!!



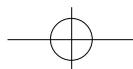
メーターパネルの中央にはインフォメーションディスプレイが配置される。ドアトリムのウッドパネルはC180には装備されない。

気分はミニSクラス!

本国では5月に発表され、日本導入が待たれていたメルセデスベンツCクラスが、まるで本誌発売に合わせたように9月26日、つまり今日発売となった。

先代のシンプルさを極めたようなCクラスから一転して、まるでミニSクラスのような堂々としたエクステリア&インテリア、そして先進の快適装備を満載したユーロCクラス。残念ながら、具体的な価格は本誌に間に合わなかったが、現地価格を考へても先代から大きな価格の上昇はないだろう。世界的に高級車の代名詞とされるメルセデスにあつて、そのコストパフォーマンスは抜群だ。Cクラスには3グレード用意されている。エントリーモデルのC180Q、スポーツモデルのC200K

搭載エンジンはC180が2直4DOHC(129ps)、C200Kが2直4DOHC+スーパーチャージャー(163ps)、C240が2.6V6SOHC(170ps)



5000021
早出し速報!!

メルセデスベンツ

C クラス

本日発売

9月26日



Photo.EDITORIAL NETWORK

いろいろな意味で注目の
メルセデス南ア工場!!

■新製Cクラスセダン(右ハンドル)の 生産工場/南アフリカ・イーストロンドン工場

南アフリカのイーストロンドン工場は、1958年からメルセデス・ベンツ車の生産を行っている歴史ある工場です。そして2000年夏、最新の設備を導入し、ダイムラー・クライスラー社の最新鋭の生産工場として生まれ変わりました。生産工程や品質管理は、ドイツ本国と同等の厳し・管理体制のもとで行われています。C200コンプレッサーとC240Q4車種、ドイツのブレーメン工場生産されますが、C180は南アフリカのイーストロンドン工場生産。そして、2001年からは、Cクラスセダン(右ハンドル車)が、イーストロンドン工場生産される予定です。あのグローバル企業として確立したダイムラー・クライスラー社、世界中の生産拠点から優れた製品を供給する体制が整いつつあります。



当初、「メルセデスベンツCクラスはあくまでもメルセデス製である。あえて南アフリカ製であることは公表しない」という販売方針で日本導入するという情報が寄せられたが、実物のCクラスの出来の良さに自信を持ったのか、セールスマニュアルには「右ハンドルは南アフリカのイーストロンドン工場生産する」というコラムが掲載されている。ドイツ製ではない、ということはもちろんメリットではないのだが、デメリットにもならない、という日本のインポーターの姿勢のあらわれだろうか。

上級モデルのC240の3つだ。C180と上級2モデルの違いは、搭載エンジン以外では、グリルやバンパー、ドアハンドルのクロームパーツ使用やウッドパネルの仕様など、ごくわずかな見た目の違いだけ。ペーシック・グレイドのC180でもメルセデスらしさは十分味わえるだろう。またボディカラーは全13色。内装色が3色用意されているのもグレイドを問わず共通だ。

このCクラスのライバルはやはりBMW・3シリーズとアウディA4(次期A4については122ページを参照)。先に発売され、すでに好調な売れ行きをみせている3シリーズと、熟成を重ね、まもなく発表されるA4に対し、メルセデスが期待するよつな勝利を収められるか。ドイツ車三つどもえの戦いに、世界中が注目している。



クライメートコントロール

車内の快適性を左右するエアコンもCクラスは最新鋭だ。日射しの強さや湿度までモニターするエアコンは、運転席、助手席それぞれに対し、別の温度、風量などが設定できる上、エレクトロニック・キーごとにエアコン設定をメモリーできるので、ドライバーが変わる度に設定し直すわずらわしさがないというスグレモノ。また、エアクオリティセンサーが外気の一酸化炭素、窒素酸化物の濃度を監視し、自動的に内気循環に切り替えるという機能も備えている。内気循環スイッチを2秒間押し続けると開いているウィンドウやスライディングルーフが自動的に閉まるという泣か



ティップシフト機構付き電子制御5速AT
いまやスポーツモデルの必須アイテム、ティップシフトがCクラスにも装備された。スポーツマインドあふれるブーツ付きのシフトレバーを、Dレンジから右に倒せばシフトアップ、左ならシフトダウンと操作もカンタンだ。もちろんシ